

コロナ時代を生きる

那須正幹

新型コロナウイルスの世界的な蔓延で、ちどり幼稚園の皆さんも随分不自由されていると思います。とくに小さいお子さんをお持ちの家庭では、なおさらでしょう。我が家も、3歳になる孫娘が、母親ともどもとんとよりつかなくなりました。聞けば、買い物もできるだけひかえ、ママ友同士の交流もやめ、ひたすら家にこもっているということです。

なるほど連日のごとく全国の感染者数や死亡者数が報道され、医療専門家から、マスク着用、手洗い励行、自粛生活を促されれば、そうするほかなくなるわけです。ウイルスは目に見えないし、いつどこで感染するかわからないという不安もあります。しかし、やたら怖がってばかりでは、それこそコロナ鬱になってしまうでしょう。これが高ずれば、感染者を悪人呼ばわりしたり、ネットでの誹謗中傷、あるいは自粛警察まがいの行動にでたりします。

コロナより人間のほうが怖いということにならないために、いまこそ人と人とのつながりを大切にしたいものです。家庭内での悩み、子育ての悩みなど、相談できる友人なり親族を持つことでしょう。

幸い日本では感染者数も減ってきていますし、自粛生活も緩和されてきています。しかし、社会状況は、もっと悪化するにちがいありません。経済は当分立ち直れないでしょうし、個人の生活にもじわじわ影響するでしょう。海外旅行も当分出来そうもありません。これまで普通にできたことが出来なくなり、新たなライフスタイルを模索する時代になると思います。

唯一の救いは、子どもたちです。コロナ時代を経験した世代が、やがて世界の主役になります。

私は、1942年生まれで、被爆も体験しました。それゆえ、戦争は絶対に嫌だという、信念をもってこれまで生きてきました。これは私だけでなく私たちの世代共通の理念だと思います。

子どもたちも、コロナ時代を体験することにより、それなりの生き方を見つけてくれることでしょう。新たな人間関係や社会の在り方について、よりよい道を見つけてくれるにちがいありません。

みなさんは、そうした子どもたちを育てているのです。どうかコロナに負けないでください。